

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀市立中川副小学校佐賀市立中川副小学校	
1 前年度 評価結果の概要	・教師主導の活動から、児童がやりたいことややるべきことを考えて計画・実践できるよう主体的な活動を仕組んでいくことで、児童の主体性の向上については、成果が見られた。引き続き主体性を伸ばす取組を教育活動に位置づけて実践を積み上げていく。 ・本校の特色ある教育活動を展開するために、目的を明確にした地域との連携を目指す。	
2 学校教育目標	気づき 考え 実行する 児童の育成 ～博愛の里 のびゆくわれら 中小っ子～	
3 本年度の重点目標	・児童の主体性を高めることをねらいとした「チーム運営（低・中・高学年）」と「プロジェクト運営（校務分掌組織）」に重点を置いた教育活動を展開し、ブラッシュアップを重ねていく。 ・カリキュラムマネジメントを推進し、コミュニティスクールとしての進化を図る。	

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○児童が主体的に学ぶ授業づくり	○すすんで友だちと話し合い、問題を解決しようとしている【児童アンケート：肯定的回答80%以上】	・チーム部会内で年6回程度の公開授業及び授業研究会を行うことで、授業力の向上を図る。 ・校内研究で取り組んできた学級活動の「つかむ一話し合う実践する一振り返る」のサイクルを意識して、授業づくり、及び単元づくりを行う。また、学級会の授業公開を全学年で行う。						
	○家庭学習の充実	○家庭学習についてチームで協議し、工夫して取り組んでいる【職員アンケート：肯定的回答85%以上】	・職員は、各学年で家庭学習のめやすの時間を意識させ、家庭学習に取り組ませる。 ・「児童が計画して学習できる」姿を目標として、チーム部会で協議し、実践する。 ・家庭と連携して「家庭学習がんばろう週間」を行い、保護者の励ましのコメントを通信等で知らせ、児童の意欲につなげる。						
	○読書活動の推進	○前学年よりも読書することが増えた【児童アンケート：80%以上】	・「読書貯金通帳」を作成し、主体的に読書を行う態度を育てる。 ・児童主体の「図書館まつり」を開催し、読書の楽しさを感じられるようにする。						
	○タブレットPCの効果的な活用	○授業の中で一人一台端末を児童にどの程度使用させましたか。【について「全学年で週5回以上」】【職員アンケート：80%以上】	・チーム部会やサポート職員と連携し、全学年で週に5回以上端末を使用する。 ・学期ごとにICTスキルの年間指導計画を振り返り、追加、修正を行う。 ・長期休業の際に、外部講師を招聘し、職員、児童のICTスキル向上のための校内研修を行う。 ・委員会活動と専門部会の共同で、児童主体で「タイピング大会」を行い、児童のタイピング技能の向上を図る。						
●心の教育	●◎児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○◎自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心について【道徳に関する児童アンケート：肯定的回答90%以上】	・6月のフリー参観で生命尊重・思いやり・社会性・倫理観や正義感・感動する心の中から項目を選び、ふれあい道徳として授業を公開する。 ・全学年、総合や生活科の時間を使って佐野常民コーナーの活用と充実を図る。 ・各学年で平和学習を行い、6年生の総合「平和発信プロジェクト」と、こころ委員会と合同で平和集会を行う。						
	●博愛の里に生まれ育っていることに誇りを持ち、自分や周囲の人々の幸せのためにできることに取り組もうとする児童の育成	●自分が住んでいる町のよさがわかりますか。【児童アンケート：A評価50%以上】 ●先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う【児童アンケート：肯定的な回答85%以上】	・全学年で、生活科や総合的な学習の時間に、地域の先人の業績から博愛について学ぶ。 ・年間を通して児童を観察し、児童のよい行動を適切に認め伝える「きらりプロジェクト」を実施する。						
	●児童に学校・学級・地域への所属感を感じさせ、自己有用感を高めさせる	●学校をよりよくしようと考えて行動することができましたか。【委員会ふりかえりカード：A評価60%以上】	・教員の専門部会と児童の委員会を連携させた年間計画を立案し、児童主体の委員会活動を教員が伴走支援する。						
	○特別活動の充実								
●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●困ったことがあったとき、誰かに相談することができましたか。【児童アンケート：A評価60%以上】	・毎月実施する「こころのアンケート」や教育相談週間での聞き取りで把握した内容や認知したいいじめ事案についてチーム(低・中・高学年)で共通理解して、指導や支援、見守りを行う。							
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	○児童は安全に気をつけて生活していると思う【職員アンケート：肯定的回答80%以上】 ○自分で考えて行動できた【避難訓練後の児童のふり回り：肯定的回答95%以上】	・地域の交通指導員の方から地域性を取り入れた指導を受けたり、外部講師を招聘しての防犯教室を実施し、いのちを守るための行動を進んで取ろうとする態度を育てる。 ・児童が主体的に考えたり、行動したりできるよう、場面に応じた判断を考える活動を取り入れた(告知なし)避難訓練を実施する。						
	●健康を考えて行動できる能力の育成	○自分の生活や体のことについて考えたことがある【児童アンケート：肯定的回答90%以上】 ○元気に過ごすために、自分で決めたことをやってみようと思ったことがある【児童アンケート：肯定的回答80%以上】	・保健に関する、本校児童の実測のデータを活用したり、地元の農家とTTでの授業を行ったりと、養護教諭・栄養教諭の専門性を活かした授業を実施する。 ・学級活動等で、児童が健康について考える授業を展開し、自己目標の決定をさせる。						
	○外遊びや運動会への児童の参画	○よりよい運動会になるために意見を出し合い、仲間と協力して自分たちらしい運動会にすることができた。【高学年アンケート肯定回答90%以上】 ○外遊びは楽しい。【児童アンケート肯定回答90%以上】	・高学年チームやくらし委員会で、外遊びプロジェクトを実施して外遊びを推奨する。 ・運動会実行委員(くらし委員会)を中心とした児童主体の運動会を実施する。						
●特別支援教育の充実	○インクルーシブ教育の推進	○インクルーシブ教育を理解し、教育活動にいかすことができた。【職員アンケート：肯定的な回答70%以上】	・毎月子ども支援会議を行い、児童への支援の在り方について全職員で共通理解を図る。 ・外部講師を招聘するなどし、支援を要する児童への理解、指導及び支援の在り方などについて学ぶ研修会を行う。						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 ○必要な時に必要な時間の休暇を取得することができた【職員アンケート：A評価85%以上】	・出勤時に退勤時刻の予定を立てさせ、見える化して、その日の業務を計画的に取り組ませる。 ・長期休業中に「年休取得推進日」を設定し、取得しやすい環境をつくる。						
	○よりよい業務体制の構築	○当事者意識をもって部会(チーム・プロジェクト)に参画できた【職員アンケート：A評価50%以上】	・部長に負担がかりすぎず、また、3部会のいずれかに負担が偏らないように、研究推進委員会で調整する。 ・チェックファイルを活用し、定期的に部会内での職員の取組方を振り返る機会をつくる。						

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○地域連携の推進	○児童と地域との協働活動を通して、地域に開かれた学校を目指す。	○地域と連携しながら児童の主体性を高めるカリキュラムマネジメントができた【職員アンケート：AB評価70%以上】	・児童に地域の協力を得る必要性を感じさせ、学校運営協議会で相談する場を保障する。 ・カリキュラムマネジメント表を意識し、児童が主体的に活動する授業を展開する。						

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育